

特別寄稿

暮らしと経済研究室・主宰

山家 悠紀夫



やんべ・ゆきお 1940年生まれ。神戸大学経済学部卒業後、第一銀行に入行。第一勧銀総合研究所専務理事、神戸大学大学院教授を経て、04年から現職。著書に『アベノミクスと暮らしのゆくえん』(岩波ブックレット)、『暮らし視点の経済学』(新日本出版社)ほか多数。

安倍首相の「大嘘」 好循環は生まれず

現 首相は堂々と嘘をつく人である。間違ったことを平然と言

い、少しも悪びれることなく嘘をつく。東京オリ

大企業は利益享受 自民への献金増加

統計を見よう。安倍内閣が発足して最

初めの年、2013年度の

企業(金融・保険を除く全法人企業)の経常利益は前年度比23%増と大幅増益であった。とりわけ資本金10億円以上の大企

業については36%増と増益率が大きかった。アベノミクスの下での株高が大企業に恩恵をもたら

し、また、同じく円安が輸出大企業に円受取額の増加をもたらしたため

ある。

ある。大企業から自民党への政治献金は著しく増えているという。さもありなんと思う。大企業に

とっては、アベノミクスを上回って史上最高額で

下回り続けている

賃金はどうか。規模5人以上の事業所で働く勤労者の一人平均賃金の動きを見ると、安倍内閣発足の年、13年の受取賃金の総額(ボーナス、時間外手当等を含む合計額)は前年比横ばい(0・0%増)であっ

た。アベノミクス下の円安の影響で、13年は消費者物価が上がったから、その分を差し引いた実質賃金を見ると、前年比0・5%減である。

安倍政権2年目の14年に入ってからは、(前年比で見ての)円安の進行、4月からの消費税増税があって物価がさらに上がったから状況はもっ

と厳しい。最新の9月の統計で前年9月比の数字を見ると、名目賃金こそ0・7%増と微増だが、実質賃金は3・0%減である。実質賃金の前年比マイナスは13年7月からずっと、15カ月も続いて

いる。人々の暮らしはそれだけ厳しくなっている、ということである。

正規雇用者は減り
非正規比率は上昇

雇用はどうか。雇用者総数は確かに増加している(13年は前年比56万人増、14年10月は前年平均比70万人増)。ただし、増えているのは非正規雇用者で(13年93万人増、14年10月前平均

比74万人増)、正規雇用者は減り続けている(13年38万人減、14年10月前

比74万人増)、正規雇用者は減り続けている。好循環など少しも起こっていない、ということである。

消費が落ち景気は悪くなりつつある

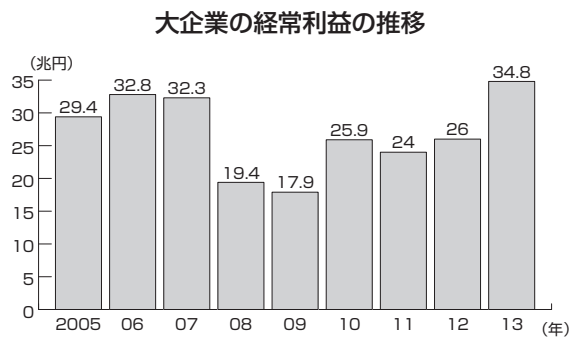
好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

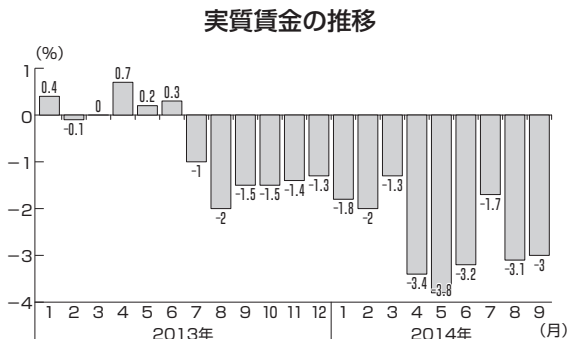
まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既にマイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

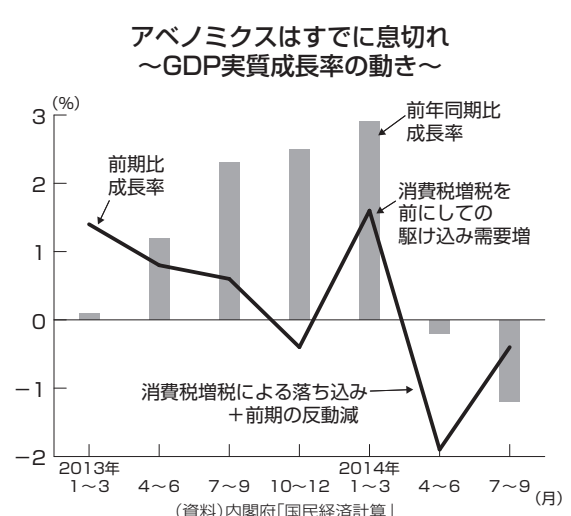


(財務省「法人企業統計」から作成。金融・保険業を除く資本金10億円以上の大企業)



(厚生労働省「毎月勤労統計」から作成。対前年同月比増減率)

12・14 衆院選 暮らしを破壊し、景気を失速 アベノミクスの虚実



アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。

まず、前期比成長率(折れ線グラフ)を見ると、内閣発足直後の13年1〜3月期こそ勢いがよかったものの、次第に減速し、13年10〜12月期には

マイナス成長に陥っている。安倍内閣発足一年を待たずしてアベノミクスの景気浮揚効果はなくなったと見ていいだろう。ちなみに、前年同期比成長率(棒グラフ)の方を見ると、ここ半年、既に

マイナスである。

円安、消費増税による暮らしの破壊、それによる景気の失速——これが2年間にわたるアベノミクスの現実である。

暮らしを破壊し、景気を失速

アベノミクスの虚実

アベノミクスはすでに息切れ
～GDP実質成長率の動き～

消費が落ち景気は悪くなりつつある

好循環どころではない。勤労者の実質収入が減って家計の購買力が衰え、消費が落ち込んで景気は既に悪くなりつつある。

安倍内閣発足以降の実質GDP成長率の動きでこれを見よう(上図)。